（最優秀おはなしエンジェル賞　小学生中高学年の部）

ばあばのアメの実

小三・深谷　馨音

「今日もよくがんばったねぇ。」

そう言って、ばあばは私の口の中にポーンとアメをほうりこんでくれる。お母さんが仕事でいそがしい時、学校や習いごとの送りむかえは、ばあばがしてくれる。その時のおきまりのぎ式だ。ばあばがくれるアメは、色んな味がする。とろけるようにあまい味、すっきりとしたさわやかな味、ちょっぴりあまずっぱい味、少しほろにがい大人の味。大きさも味もその時によってちがうけれど、どれも何ともいえないしあわせな味がするのがふしぎだ。

「このアメ、どこで買ってるの？」

と私が聞くと、

「ヒ、ミ、ツ。」

と言ってニヤリとするばあば。私は気になってしかたがない。

もう一つ私が気になってしかたがないのは、ばあばの家のあの部屋。げんかんから入ってすぐ左にある部屋は、いつも戸が閉まっていて、だれも入れないようになっている。私が入ろうとすると、

「この部屋は入らないでね。きたないから見られたくないんだよ。」

と言って、ふふふっとわらう。きれい好きのばあばが、部屋をきたなくするはずがない。それに、私たちのねがいはたいていかなえてくれるばあばが、これだけはゆずれないのがふしぎでたまらない。

さい近、ばあばは耳が遠くなってきた。テレビの音を大きくしたり、私たちの話を聞きとれなかったりする。お母さんがほちょう器

をすすめてもいやがっていたばあばが、ついにほちょう器をし始めた。今日は、そのメンテナンスの日。お母さんが心配してばあばについていっていって、私はばあばの家で一人おるすばん。（今がチャンス！あの部屋に入ってみよう！）私は少しうしろめたい気もちをしながらも、そろそろと、戸を開けてみた。うちゅう人の家族が住みついていたら？　きょうりゅうの卵をひそかに育てていたら？　本当はま女で、トカゲの目玉やねずみのつめあかを煮こんだスープがあったら？　入ってみると、そこは私の想像していた所とは別世界だった。

「この部屋、サンルームになってたんだ。」

明るい日ざしがさしこみ、緑が生き生きとあふれる空間。そこには、たくさんの植木鉢が置いてあり、まだ芽が出たばかりのものもあれば、ぐんぐん育ち花や実がなっているものもある。実は様々な色をしていて、キラキラ光っている。まるでおいしそうなアメのよう。

一番手前の鉢をのぞいてみると、まだ双葉が出たばかり。鉢にはメモがはってあって、『福耳さん、これからもよろしくね』と書いてある。そう言えば、ばあばは立っぱな福耳をよく自まんしていた。でも、耳が悪くなって、福耳が役に立たないとさい近ぐちをこぼしていた。この鉢は、ばあばの耳の聞こえと関係があるのかもしれない。

手前から二番目の鉢は、大分茎がのびていて葉が元気だ。つぼみがたくさんあって、花もちらほらさいている。メモには『だれかさん、私のお金、大切に使ってよ』と書いてある。そうだ、ばあばがるすの時、空き巣に入られて、お金をぬすまれたって聞いたことがある。こわがり屋のばあばは、その日ねむれなかっただろうな。こ

の鉢は、その事件と関係がありそう。

三番目の鉢は、茎がぐんぐんのびて花ざかり。実も少しついている。メモには『あなたの分まで力強く生きますよ』と書いてある。あなたって…七年前に亡くなったじいじのことかも。じいじが亡くなる前に、〝力強く生きるように〟という手紙を、お母さんやばあばにわたしたって聞いたことがあるもん。この鉢は、亡くなったじいじに関係があるんだ。

そのおくの鉢は、いきおいよく茎がのび、葉もしげり、実がいくつもなっている。『今の家には、思い出がたくさんあるから大丈夫』というメモ。今の家？　そうだそうだ！　ばあばは昔、家が火事で丸焼けになって、親せきの家で暮らしていた話を聞いたことがある。

「ばあばにはねぇ、子どものころの思い出の写真が一枚もないの。」と言って、泣きマネをしていたけど、もし私だったら、すごく辛いだろうな。この鉢は、ばあばの昔の家とぜったい関係がある。

一番おくの鉢のメモには何て書いてあるんだろう。『お父さん、女三人でがんばりましたよ』ばあばが赤ちゃんの時、お父さんが亡くなってしまったと聞いたことがある。町の消防団で火事を消しに行って亡くなったらしい。

「ばあば、お父さんの顔を知らないんだよ。きっとイケメンだったろうねぇ。」

と言って笑わせてくれたけど、女三人で生きるのは、きっとすごく大変だったろうなあ。そう思いながら鉢の中を見ると、茎は木の幹のように太く、葉はゆたかに生いしげっている。実がたくさんできていて、キラキラかがやいている。（まるでアメみたい。）私は一つもぎとって口に入れてみた。たっぷりじゅくしたその実は、とろけるように甘くて、幸せな気持ちになった。私はわかってしまった。

ばあばは、何かを失ったり手放したりした時の悲しみやさびしさをタネにつめて、大切に育て、何年も何十年もかけて、人を幸せな気持ちにする実を実らせてきたんだ。だから、ばあばがくれるアメは特別においしいんだ。

そう言えば、昨日ばあばが口に入れてくれたアメは、甘ずっぱい味がしたな。まだそれほどじゅくしていない実…もしかしたら、七年前に亡くなったじいじへの思いがつまっているアメなのかも。私は、やさしかったじいじを思い出す。こんなかたちでじいじに会えるなんて。ばあばのアメの実のヒミツで、私の心は、キラキラとかがやいている。

画：平澤朋子